

物理学 I (力学) 7 回目: 仕事とエネルギー (1)

中野武雄
2011年5月22日

今日の内容

- これまでの話のふりかえりと前回のおさらい
- 「保存量」のまえふり
 - 仕事とエネルギー
 - 力積と運動量
 - 角運動量と力のモーメント
- 仕事とエネルギー
 - 運動方程式の「積分」?
 - ベクトルの内積と経路積分
 - エネルギー方程式

力学と保存量

保存量・保存則

- 微分方程式である運動方程式をいちいち解くのはたいへん
 - ある条件下においては、「時間によって変化しない物理量」が存在する
 - 時間 t_1 と t_2 で共通な物理量があれば、それをもとに代数的な計算が可能
- 保存量に対応して「保存則」
 - エネルギー保存則・運動量保存則・角運動量保存則

3つの保存量

- エネルギー
 - 質点系が受ける「仕事」が 0 なら変化しない
 - 保存力による仕事 → 全エネルギーの保存
 - ベクトルの「内積」と深く関わる
- 運動量
 - 質点系が受ける外力が 0 なら変化しない
 - 多体系で便利に使える
- 角運動量
 - 質点系が受ける「力のモーメント」が 0 なら変化しない
 - ベクトルの「外積」と深く関わる

余談: ネーターの定理

- 古典力学における座標と運動量の考え方を抽象化・高度化した「解析力学」の分野に進むと、保存量は時空間の対称性から導かれることが示される
 - エネルギー保存 → 時間の並進対称性
 - 運動量保存 → 空間の並進対称性
 - 角運動量保存 → 空間の回転対称性

仕事とエネルギー

話の流れ

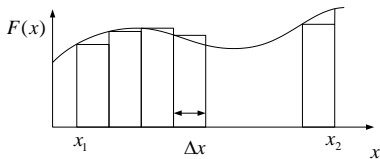
- 運動方程式を位置(経路)で積分
→仕事と力学的エネルギー
(運動方程式を時間で積分→力積&運動量)
- 経路積分: 力(ベクトル)と経路の微小区間(ベクトル)の「内積」の積分
- 今日は「内積」の定義から経路積分を経て、エネルギー方程式(力学的エネルギー保存則)まで。

運動方程式の積分(1次元)

$$m \frac{dv}{dt} = F$$

$$\int_{x_1}^{x_2} m \frac{dv}{dt} dx = \int_{x_1}^{x_2} F dx$$

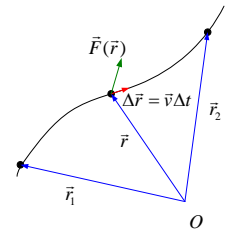
(...たぶん実行できそう)



2次元以上の場合...?

$$m \frac{d\vec{v}}{dt} = \vec{F}$$

$$\int_{\vec{r}_1}^{\vec{r}_2} m \frac{d\vec{v}}{dt} \dots ?$$



ベクトルの内積と線積分

ベクトルの内積

自分との内積:

$$\vec{A} \cdot \vec{A} = |\vec{A}|^2 (= A^2)$$

交換法則:

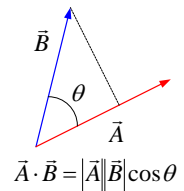
$$\vec{A} \cdot \vec{B} = \vec{B} \cdot \vec{A}$$

結合法則 (スカラー倍):

$$(k\vec{A}) \cdot \vec{B} = \vec{A} \cdot (k\vec{B}) = k(\vec{A} \cdot \vec{B})$$

分配法則:

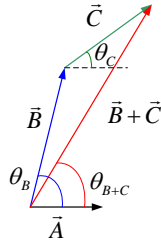
$$\vec{A} \cdot (\vec{B} + \vec{C}) = \vec{A} \cdot \vec{B} + \vec{A} \cdot \vec{C}$$



参考: 内積の分配則

$$|\vec{B} + \vec{C}| \cos \theta_{B+C} = |\vec{B}| \cos \theta_B + |\vec{C}| \cos \theta_C$$

$$\Rightarrow \vec{A} \cdot (\vec{B} + \vec{C}) = \vec{A} \cdot \vec{B} + \vec{A} \cdot \vec{C}$$



ベクトルの内積の成分表現

基準ベクトル \vec{e}_1, \vec{e}_2 を用いると :

$$\vec{e}_1 \cdot \vec{e}_2 = \vec{e}_2 \cdot \vec{e}_1 = 0$$

$$\vec{e}_1 \cdot \vec{e}_1 = \vec{e}_2 \cdot \vec{e}_2 = 1$$

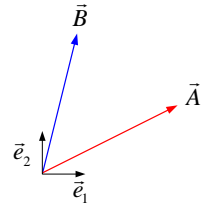
成分表現

$$\vec{A} = a_1 \vec{e}_1 + a_2 \vec{e}_2$$

$$\vec{B} = b_1 \vec{e}_1 + b_2 \vec{e}_2$$

に対して分配則を使えば、

$$\vec{A} \cdot \vec{B} = a_1 b_1 + a_2 b_2$$



参考: 余弦定理から成分表現

余弦定理から、

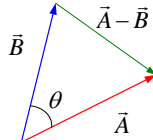
$$|\vec{A} - \vec{B}|^2 = |\vec{A}|^2 + |\vec{B}|^2 - 2|\vec{A}||\vec{B}|\cos \theta$$

$|\vec{A}|^2 = a_1^2 + a_2^2$ などを用いると、

$$2\vec{A} \cdot \vec{B} = |\vec{A}|^2 + |\vec{B}|^2 - |\vec{A} - \vec{B}|^2$$

$$= a_1^2 + a_2^2 + b_1^2 + b_2^2 - (a_1 - b_1)^2 - (a_2 - b_2)^2$$

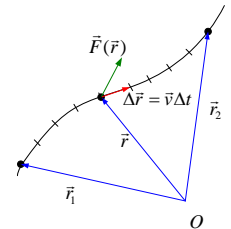
$$= 2a_1 b_1 + 2a_2 b_2$$



経路積分(線積分)

$$\sum \vec{F}(\vec{r}) \cdot \Delta \vec{r} \xrightarrow{\text{刻み目} \rightarrow \text{極小}} \int_{\vec{r}_1}^{\vec{r}_2} \vec{F} \cdot d\vec{r}$$

(線積分の具体例は来週やります)



エネルギー方程式

運動方程式の積分

運動方程式

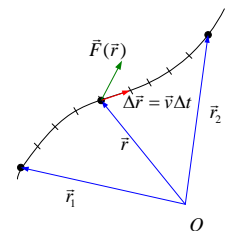
$$m \frac{d\vec{v}}{dt} = \vec{F}$$

の両辺を線積分する

$$\int_{\vec{r}_1}^{\vec{r}_2} m \frac{d\vec{v}}{dt} \cdot d\vec{r} = \int_{\vec{r}_1}^{\vec{r}_2} \vec{F} \cdot d\vec{r}$$

左辺は置換積分する

$$d\vec{r} = \vec{v} dt \quad \begin{array}{l} \vec{r} \quad \vec{r}_1 \rightarrow \vec{r}_2 \\ t \quad t_1 \rightarrow t_2 \end{array}$$



エネルギー方程式

$$\int_{\vec{r}_1}^{\vec{r}_2} m \frac{d\vec{v}}{dt} \cdot d\vec{r} = \int_{\vec{r}_1}^{\vec{r}_2} \vec{F} \cdot d\vec{r}$$

$\vec{r}_1 = \vec{r}(t_1)$, $\vec{r}_2 = \vec{r}(t_2)$ となるよう t_1 , t_2 を定め、
 $d\vec{r} = \frac{d\vec{r}}{dt} dt = \vec{v} dt$ を用いると、
 左辺 = $\int_{t_1}^{t_2} m \frac{d\vec{v}}{dt} \cdot \vec{v} dt$
 いま $\frac{d}{dt}(\vec{v} \cdot \vec{v}) = \frac{d\vec{v}}{dt} \cdot \vec{v} + \vec{v} \cdot \frac{d\vec{v}}{dt} = 2 \frac{d\vec{v}}{dt} \cdot \vec{v}$ より、
 左辺 = $\int_{t_1}^{t_2} \frac{m}{2} \frac{d}{dt} (|\vec{v}|^2) dt = \frac{1}{2} m v_2^2 - \frac{1}{2} m v_1^2$

「仕事」の定義・ 「運動エネルギー」の定義

右辺 = $\int_{\vec{r}_1}^{\vec{r}_2} \vec{F} \cdot d\vec{r} \equiv W(\vec{r}_1, \vec{r}_2)$ と定義。
 $\Rightarrow \frac{1}{2} m v_2^2 - \frac{1}{2} m v_1^2 = W(\vec{r}_1, \vec{r}_2)$

$\frac{1}{2} m v^2$: 運動エネルギー
 $W(\vec{r}_1, \vec{r}_2)$: 経路 $\vec{r}_1 \rightarrow \vec{r}_2$ における仕事

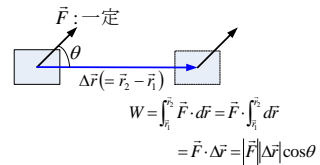
- 「運動エネルギーの増加は、その間に質点に働いた力のなす仕事に等しい」

運動方程式の積分(1次元)

$$\int_{x_1}^{x_2} m \frac{dv}{dt} dx = \int_{x_1}^{x_2} F dx$$

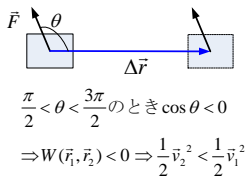
左辺で $dx = v dt$ と置換する。 $\left. \begin{matrix} x & | & x_1 \rightarrow x_2 \\ t & | & t_1 \rightarrow t_2 \end{matrix} \right\}$
 左辺 = $\int_{t_1}^{t_2} m \frac{dv}{dt} v dt = \int_{t_1}^{t_2} \frac{m}{2} \frac{d}{dt} (v^2) dt = \frac{1}{2} m \{v(t_2)\}^2 - \frac{1}{2} m \{v(t_1)\}^2$
 右辺 = $\int_{x_1}^{x_2} F dx$ は $W(x_1 \rightarrow x_2)$ と定義。
 $\Rightarrow \frac{1}{2} m \{v(t_2)\}^2 - \frac{1}{2} m \{v(t_1)\}^2 = W(x_1 \rightarrow x_2)$

参考:一定の力で 直線移動させるときの「仕事」



この値が \vec{r}_2 と \vec{r}_1 での運動エネルギーの差に等しい

余談:仕事を負の場合もある



- 加速度が速度と逆向き → 減速過程に対応